



創業106周年記念式典

03

07

Project Highlights

05



ユーザー訪問記 213

進化する火力発電 CO₂削減と水素活用への挑戦

関西電力株式会社 姫路第二発電所



ニュースの窓

梅林地区水利施設等 保全高度化事業第2号工事が、 熊本県の農村振興技術連盟より表彰

12

14

ワークライフバランスだより

「夢を追いかける」
小さくても変化を
継続することから
全てが始まります。

CEO 原田耕太郎

CEO MESSAGE

本日、創業106周年を無事に迎えることができました。この一年間、私たちを支えてくださったすべてのお客様、そしてパートナーの皆様にご心から感謝したいと思います。

2023年、2024年の夏は2年連続で観測史上1位の記録的な猛暑でした。そして2025年、近畿地方では初めて6月中に梅雨が明けて、今年も記録的な猛暑と水不足の夏が始まりました。一方で、7月上旬にはアメリカ・テキサス州で大規模な

洪水が発生し、100人を超える尊い命が奪われるなど、豪雨や洪水に苦しむ地域も数多く存在します。このような厳しい時代において、私たちトリシマは「ポンプで世界を救う」という壮大な夢を掲げ、猛暑や渇水、豪雨や洪水の危険から人々の暮らしを守り抜くために、進化し続けています。売上1,000億円、営業利益100億円という目標は、トリシマがこの夢を追い続けるなかで、さらに発展するための重要なステップなのです。



しかし、急激な成長の過程で生じる「成長痛」(Growing Pain)から、「夢を追う」より「仕事に追われている」とたくさんの人が感じている現状があることも認識しています。だからこそ、2025年度は、「『つくる力』の強化」を最大の課題と位置づけ、全社一丸となって取り組んでいます。7月には、韓国のJuneung社、英国のKRG社が新たにトリシマグループに加わりました。この2社は、これまで外部に依存していた私たちの機械加工能力を

補強し、トリシマの「つくる力」を押し上げてくれます。さらに私たち自身に変化することで、モノづくりプロセスを効率化・システム化する「フロント・ローディング」を進め、根本的な「つくる力」を大きく伸ばしていきます。そう、成長の鍵は、私たち一人ひとりの変化にあります。本日ご講演いただいた石黒さん、そしてAlistair COOがくしくも共通して語ってくれたのが、「小さくても継続する変化の力が、必ず大きな夢へとつながる」というメッセージでした。

石黒さんが自身の著書「奇跡の夢ノート」のあとがきに書かれた言葉を、最後に皆さんと共有したいと思います。私たちトリシマは、今日からまた新たな一年、107年目の道を歩みます。変化を繰り返して夢を追い続ければ、必ずその夢は叶うと信じて。

(2025年8月1日創業記念式典にて)

石黒由美子著「奇跡の夢ノート」

「奇跡の夢ノート」というタイトルを提案された当初、私は違和感を持った。

「『夢ノート』に書いた内容が実現したのは、奇跡でもなんでもないんです。私は、本当に、血を吐くほど一生懸命努力しました。だから、夢を叶えることができたんです」

しかし、そのとき一緒にいた母が、こう言ったのだ。「『奇跡でもなんでもない』。そう思えることが、奇跡なんだよ」

225ページからの引用

99.9%回復しないという視力が手術前日に回復し、ガラス片が鼻から飛び出し、入院中にたまたまドラマを通してシンクロナイズドスイミングに出会ったこと。その奇跡があったからこそ、どんな大きな夢をも信じることができた。「夢ノート」を心の支えに生きることができた。そして、さまざまな肉体的困難、精神的困難を乗り越え、オリンピック出場を果たすことができたのだと。目からウロコが落ちる思いだった。

創業106周年記念式典

8月1日に本社工場ビル4階大ホールにて、創業106周年記念式典が開催されました。今年度は、まず特別講演として2008年北京オリンピックのシンクロナイズドスイミング（現・アーティスティックスイミング）元日本代表の石黒由美子氏にご講演いただきました。

その後、Alister COOからの式辞があり、優良従業員・永年勤続者が表彰され、最後は、原田CEOの言葉で締めくくられました。創業以来の歴史を振り返るとともに、新たな未来へ向けて全社員が一丸となることを誓い合う、貴重な一日となりました。

講演

「夢をあきらめない」

小学2年生の時に交通事故に遭い、心臓が何度も止まり、「命がつながっていることが奇跡」と言われるほどの瀕死の重傷を負った石黒由美子氏。首から上だけで800針を縫う大けがを負い、手足の麻痺、失明、難聴、記憶喪失と、想像を超える困難を経験されました。

入院中にテレビで見たシンクロナイズドスイミングに心を奪われ、「シンクロでオリンピックに出る」と夢ノートに記した石黒氏は、後遺症と闘いながらも、母とともに地道な努力を重ね続け、24歳で北京オリンピック出場という夢を現実のものとされました。

創業記念式典では、母の手作りという思い出の水着をそばに壇上に立たれ、



石黒由美子氏

ご自身の壮絶な経験を、ときにユーモアを交えながら語っていただきました。

「命さえあれば、何度でもやり直せる」。そう語り、人生を懸けて支えてくれた母の存在。「由美ならできる」という言葉に、何度も救われたといいます。

母が伝えてくれた「家族はチーム」という言葉。誰かの足元を照らす光は、巡って自分の足元も照らしてくれる——。人のために尽くすことが、やがて自分の人生を支えてくれる。

石黒氏の言葉には、そうした揺るぎない信念と、深い愛情が込められていました。会場は、あふれる想いと静かな感動に包まれ、ひとときわたたかな余韻が残る講演となりました。

Alister COO式辞

「変化へのコミットメント」

Alister COOは「本日の創業記念式典は、変化を受け入れ、新たな挑戦を続ける同僚たちの功績を称えるものです。変化は日々の積極的な働きかけから生まれるものであり、組織をより良くしていくためには日々の努力が不可欠です」と述べ、小さな継続的な変化の力について、水泳選手のメアリー・T・マーハーの例を挙げて説明しました。



Alister COO



優良従業員表彰

★ グループ表彰

被表彰者 チーム 7G

井田 清貴 阿部 誠也 楠本 隆之 井伊 秀樹
野口 朝晴 江島 歩 山本 浩介

アジャイル開発手法を取り入れて「支払いシステム
の開発と立ち上げ」に取り組み、トリシマおよび取引



先の双方にとって有益な仕組みを構築しました。

チーム名の「7G」は、スマートフォンなどで5Gが普及し、次世代の6Gの話題も聞かれるなかで、さらにその先の未来を見据えようという思いが込められています。また、チームメンバーが7人であることも、この名称の由来となっています。

被表彰者 産業本部 サービス管理部 トレーニングセンター指導員チーム



武田 誠司 小野田 孝平 高田 三喜男
神原 集 池田 保 吉村 大樹

新入社員を含めた社員教育のため、また、国内外のお客様や協力会社などを対象に、研修を積極的に実施し、ポンプのメンテナンス技術の指導に尽力しました。

永年勤続者表彰

★ 勤続20年

金ヶ江 康子 井上 正隆 日置 耕平 大野 通令
藤田 尚也 田中 祐也 中村 岬 武藤 貴大

進化する火力発電 CO₂削減と水素活用への挑戦

関西電力株式会社 姫路第二発電所

LNGの受け入れから発電まで 国内最大級の一貫体制

兵庫県姫路市に位置する関西電力株式会社 姫路第二発電所は、設備容量・敷地面積ともに国内最大級の火力発電所です。甲子園球場約19個分に相当する広大な敷地内には、出力48万6,500kWのコンバインドサイクル発電設備が6基設置され、総出力は291.9万kWに達します。

また、姫路港に隣接する地の利を活かし、燃料であるLNG（液化天然ガス）の受け入れ設備も完備。LNGの受け入れから発電までを一貫して行っており、安定した電力供給を支える重要な拠点となっています。

地域とともに歩む

最寄り駅「白浜の宮」周辺には、毎年秋に「灘のけんか祭」が奉納される松原八幡神社があります。地元出身の社



写真提供：関西電力株式会社

員や協力会社の方々が屋台^{やっさ}を担ぎ、地域の伝統文化に積極的に参加されているそうです。

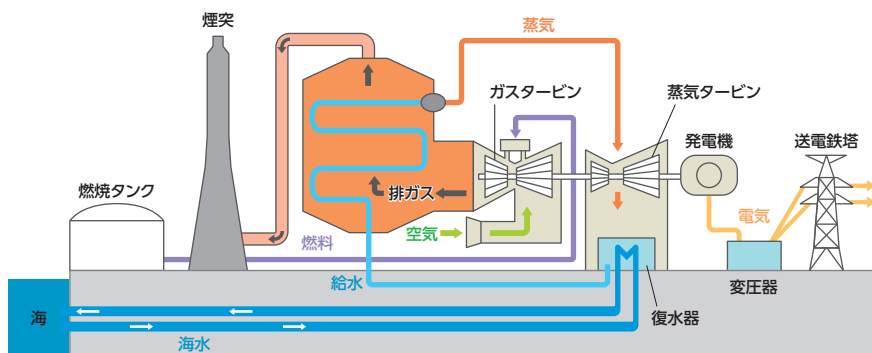
祭りの後には休暇を取得してゆっくり過ごす社員も多いそうで、会社としても地域との関わりや自主的な活動を尊重する風土がうかがえました。

環境負荷低減への取り組み

2013年8月より稼働を開始したコンバインドサイクル発電設備は、ガスタービンと蒸気タービンを組み合わせ、排熱を有効利用する発電方式です。熱効率は約60%と高

く、燃料使用量とCO₂排出量の削減を実現しています。

さらに2025年5月には、三菱重工との共同研究による排ガスを活用したCO₂分離・回収技術の実証試験を行うパイロットプラントが新設・稼働。高い稼働率と大規模設備を有する発電所だからこそ、こうした最先端技術の導入が可能となっています。



コンバインドサイクル発電の仕組み

資料提供：関西電力株式会社

保守メンテナンスで支える 設備の安定稼働

今回の取材では、保守課の井上様と平井様にお話を伺いました。本発電所は発電課、保守課、計画課の3部署で構成され、保守課は設備メーカーとの調整や、修繕対応の技術検討を担っています。また、「保守課の役割は、すべての設備をトラブルなく稼働できる状態に保ち、故障があれば修理することです。ポンプについても定期的にメンテナンスを行っており、トリシマのポンプは順調に稼働しています」と教えていただきました。

電力需要が高まる夏季・冬季には、6基すべての発電設備がフル稼働できるようにしています。そのため、1基でも停止すると電力需給に影響が及ぶことから、各設備の安定稼働は非常に重要です。

本発電所ではトリシマ製の高中圧給水ポンプ、復水ポンプ、所内冷却水ポンプなど、大容量または高圧に対応したポンプが使用されています。「これらはいずれも発電ユニットの運転に欠かせないものであり、特に需要がピークに達する前には、ポンプの状態や振動チェックに気を配り、確実に稼働できるよう心がけている」とのことです。

なかでも高中圧給水ポンプはユニットの中核を担う機器であり、予備機も導入されています。整備時には予備機と入れ替えるローテーション方式が採用されており、緊急



取材に協力いただいた、平井様（左）と総括機械係長の井上様（右）

時の早期復旧や定期整備の効率化が図られています。

トリシマの印象についてお二人に伺ったところ、メンテナンスのしやすさや制御性の高さを評価いただきました。井上様には「トラブル発生時には迅速に技術者を派遣いただけるスピード感と、親切な対応が印象的です」とおっしゃっていただき、平井様には「不具合に対しても前向きに提案してくれます。振動トラブルの際には、原因の特定から対策の提案まで一貫して対応していただき、対策後は振動が治まりました」と、実体験を交えて話していただきました。

水素を活用した次世代発電に取り組む

近年、燃焼時にCO₂を排出しない水素燃料が次世代エネルギーとして注目されています。本発電所ではその先陣を切り、日本で初めて燃料の天然ガスに水素を30%混焼

する事業用大規模発電の実証試験を開始しました。この水素混焼発電で生み出された電力の一部は、大阪・関西万博にも供給され、水素発電分野での先進的な取り組みに、高い注目が集まっています。トリシマとしても、水素社会の到来を見据え、液化水素ポンプの開発を進めており、今後の連携にも期待が高まります。

最後になりましたが、今回の取材にあたり、お忙しいなかご対応いただきました井上様、平井様をはじめ、関係者の皆様に誌面をお借りして厚く御礼申し上げます。

取材／大阪産業営業部 小野 良延
産業統括部 安藤 めぐみ



高中圧給水ポンプ
(ボイラ給水ポンプ)



撮影協力：関西電力株式会社

Project Highlights

01 地域農業を守る使命 — 砂川排水機場の更新工事を受注

熊本県から砂川地区農村地域防災減災事業（湛防）第2号工事を受注

熊本県宇城市小川町の西部に位置する砂川排水機場は、二級河川・砂川が八代海に注ぐ河口の左岸（上流から下流を見て左側）にあります。対岸には、1853年の砂川新開干拓の際、潮止めの人柱の代わりに延命地藏を埋めたという伝説を持つ「延命地藏菩薩堂」があり、また機場の上流には、秋に数十万本のコスモスが約6kmにわたって咲き誇る「コスモス街道」が続くなど、歴史と景観に恵まれた地域です。

本地区では水稻を中心に、イチゴなどの施設園芸も盛んに営まれており、営農の継続と農業経営の安定には、排水機場の機能維持が欠かせません。

本機場は、砂川および八間川流域の人々と農地を水害から守るため、1973年度に建設され、以降50年以上にわたって地域の防災に貢献してきました。しかし、機器の老朽化により機能低下が進行し、湛水被害の再発が懸念されていたことから、排水機能の回復と災害に強い農村づくりを目的に、更新整備工事が発注され、トリシマが受注しました。

今回の入札は総合評価方式により実施され、現地特性を踏まえた施工計画や品質・安全面に配慮した技術提案が高く評価されました。現在、2028年7月の竣工に向けて、機器の設計・製作を進めています。

2024年11月、熊本県との連携による2回目の「熊本物産フェア」をトリシマ本社で開催しました。多くの社員が熊本の魅力に触れる貴重な機会となり、社内の一体感が深まるとともに、地域貢献への意識も一層高まるイベントとなりました。本フェアの開催にご尽力いただいた熊本県職員の皆様をはじめ、ご参加・ご協力いただいた社員の皆様、ならびにそのご家族の皆様に、厚く御礼申し上げます。

ポンプ名称	主ポンプ
口径・形式	SP1500
台数	3台
原動機容量	250 kW

02 排水機場の設備更新で湛水被害の解消へ

栃木県から石川排水機場の主ポンプ設備更新工事を受注

石川排水機場が位置する栃木市藤岡町では、水稻を中心に、大豆・ねぎ・にらなどの野菜類を組み合わせた複合的な農業経営が行われています。現在、米の供給不足による価格高騰が話題となっていますが、全体としては主食用米の需要が減少傾向にあるため、地域では高収益作物の導入による収益性の高い農業経営が模索されています。また、当該地域は栃木市の「農業振興地域整備計画」において、将来にわたって農業振興が見込まれる地域と位置づけられており、安定的な営農を支える農業基盤の整備が重要な課題となっています。

しかし、当地は北西に巴波川、東に旧巴波川、南に渡良

瀬遊水地に囲まれた低平地であり、降雨によって渡良瀬遊水地の水位が上昇すると自然排水が困難になります。とくに2015年9月の関東・東北豪雨では、農地が広範囲で湛水し、大きな被害を受けました。既設の機場は供用開始から40年以上が経過しており、ポンプなど機器の老朽化が進んでいます。万が一、機器が故障し排水機能が停止すれば、地域の営農に深刻な影響を与える恐れがあります。

そこで本工事では、既設機場（500mm両吸込渦巻ポンプ×2台、0.97m³/s）を廃止して、新機場（600mm斜流ポンプ×2台、1.3m³/s）を建設し、排水性能の増強による湛水被害の解消を図ります。

本工事の入札に際しては総合評価方式が採用され、「施工上、技術的に特に留意すべき課題とその把握について」というテーマが提示されました。トリシマはこれに対して、的確かつ具体的な施工計画を提案し、高い評価を得て受注に至りました。

本工事は2026年度中の完了を予定しており、事業全体としては2027年度の完成が予定されています。今後も発注者、設備管理者、協力業者の皆様と密に連携を取りながら、地域農業の持続に貢献する高品質な排水機場の完成をめざしていきます。



ポンプ名称	主ポンプ
口径・形式	SP600
台数	2台
原動機容量	45 kW

03 水処理設備の省エネ化に貢献

日本製鉄株式会社 山口製鉄所向けにスーパーエコポンプ2台を受注

日本製鉄株式会社山口製鉄所は、ステンレス鋼専用電気炉を備え、多様な品種のステンレス鋼製品を製造されています。なかでも炭素鋼・合金鋼分野においては、汎用鉄鋼製品では得られない高付加価値な製品群をラインアップされています。

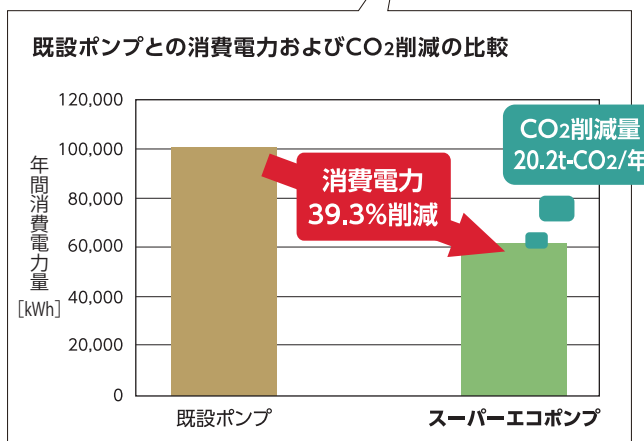
今回トリシマは、水処理設備用ポンプにおける省エネ提案を実施し、スーパーエコポンプを受注しました。

今回の受注では、単なる高効率ポンプへの更新提案にとどまらず、既設ポンプの運転点を的確に把握し、その運転条件に最適なポンプを選定することで、エネルギー効率の最大化を図った点をご評価いただきました。スーパーエコポンプによる省エネにあたっては、導入前の予想電力削減率は34.7%になるとお客様にご報告していましたが、導入後の効果検証により、39.3%の電力削減率を確認し、当初の見込みを上回る成果となりました。

同社では、2050年のカーボンニュートラル実現に向け、2030年までに温室効果ガス排出量を30%以上削減する中間目標を掲げておられます。そのなかで、ポンプによる省エネ効果は全体の中では小規模かもしれませんが、こうした着実な取り組みの積み重ねこそがカーボンニュートラル

の実現には不可欠であり、今後もお客様の設備運用実態に即した最適仕様のスーパーエコポンプの提案を推進していきます。

口径・形式	CAR50-200E
台数	2台
原動機容量	11 kW
電力削減率 (既設ポンプ比較)	39.3%
CO ₂ 排出削減量 (既設ポンプ比較)	20.2t-CO ₂ /年



04 省エネ提案によるスケールピットポンプの更新を受注

東京製鐵株式会社 田原工場向けにスケールピットポンプを受注

東京製鐵株式会社では、2050年のカーボンニュートラル実現に向けた長期環境ビジョン「Tokyo Steel EcoVision 2050」を掲げ、積極的に環境対策へ取り組まれています。Scope1・2におけるCO₂排出原単位は、2013年度を基準に2022年度時点で既に35%の削減を達成。さらに2030年度には総排出量を2013年度と同等に抑えつつ、原単位ベースで60%削減することを目標とされています。

同社では、こうした環境ビジョンの一環として機器の省エネ更新にも積極的に取り組まれており、今回、トリシマは省エネルギーを主眼とした提案活動により、田原工場向けに圧延スケールピット用の立軸斜流ポンプ1台の更新を受注しました。

更新対象のスケールピットポンプは、圧延工程における鉄鋼排水を再利用する際、鉄粉などのスケールを多く含む水をピットから水処理設備へ送水する重要な役割を担っています。磨耗などによる性能低下が起こりやすく、過酷な

運転条件下で使用されることから、耐久性と高効率が求められます。

今回の省エネ提案では、ポンプ効率が78%から84.8%へと向上し、約6.8ポイントの効率改善が見込まれています。本ポンプは原動機容量も大きいことから、消費電力の削減効果は大きく、CO₂排出量の削減にも大きく貢献することになります。

今後もトリシマは、省エネを切り口とした提案活動を通じて、お客様のエネルギーコスト削減と脱炭素化の実現に貢献していきます。

ポンプ名称	圧延スケールピットポンプ
口径・形式	SPV700
台数	1台
原動機容量	570 kW

05 香港の新規雨水ポンプ場向け渦対策機構付き雨水ポンプを受注

香港特別行政区政府渠務署向けに雨水ポンプ8台を受注

トリシマの連結子会社であるTorishima (Hong Kong) Limitedは、香港の河川および下水道の管理全般を担う香港特別行政区政府渠務署 (Drainage Services Department、以下DSD) より、広東省深圳市沙頭角 (Sha Tau Kok) 地区に建設される新設の雨水ポンプ場向けに雨水ポンプ計8台を受注しました。

本案件の背景には、2018年9月に香港を襲った超大型台風による大規模な浸水被害があります。沙頭角周辺を含む広範囲で甚大な被害が発生したことを受け、DSDでは将来の気候変動に備えた排水インフラの強化を目的に、本ポンプ場の建設を進めています。

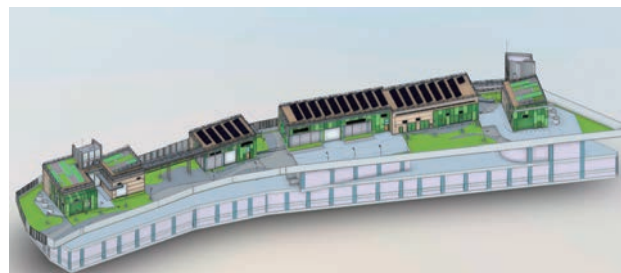
本ポンプ場は、約4kmの雨水排水路、1.9kmの防潮壁、地下に10,000m³の貯水槽を備えた大規模なポンプ場であり、トリシマは本ポンプ場に、大流量ポンプ5台と中流量ポンプ3台の計8台を納入予定です。これにより、毎秒9.1m³の排水能力を有するシステムが構築されます。

本プロジェクトでは、ポンプの安全かつ安定した運転を実現するため、トリシマの特許技術である「二重ラッパカン」と「渦対策リング」による渦抑制技術を提案し、採用いただきました。この技術は、低水位運転や大容量排水時に発生する水中渦や空気吸込渦をポンプ本体で効果的に抑制するもので、日本国内でも高く評価され採用が増えています。

香港での本技術の採用は今回が初めてであり、トリシマの技術力が国際的にも高く評価された事例となりました。

今後もトリシマは、これまで培ってきた技術とノウハウを活かし、お客様のニーズに寄り添った最適な設計・技術提案を通じて、国際的な社会インフラの発展と災害対策に貢献していきます。

ポンプ名称	High Flow Storm water Pump	Medium Flow Storm water Pump
口径・形式	SPV900	SPV700
台数	5台	3台
原動機容量	355 kW	250 kW



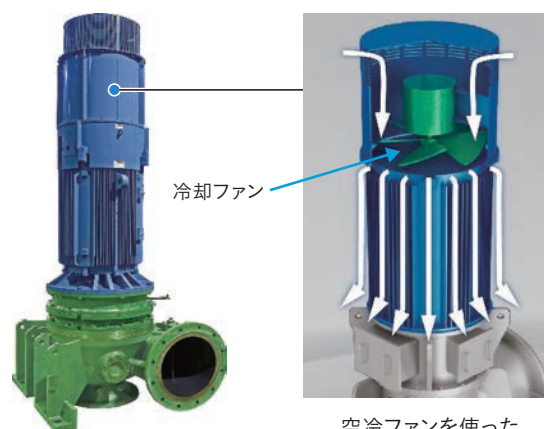
本ポンプ場の完成イメージ

ニュースの窓 | TORISHIMA NEWS | May. - Aug. 2025

パキスタンでWOW TO JAPAN プロジェクト2年目へ

国土交通省が実施する日本の下水道技術の海外展開を促進する事業で、Wonder Of Wastewater Technology Of JAPAN の頭文字をとったWOW TO JAPAN プロジェクト。海外諸国のニーズに適った日本の技術の実証試験を通じ、技術の適応性・有効性を確認するとともに現地関係者に技術の理解醸成を図り、日本の下水道技術の普及をめざしています。

1年目の2024年度は、2024年7月にトリシマが提案した「熱帯地域での空冷式耐水モーター体型ポンプに係る実証事業」が採択され、2025年3月にパキスタン・イスラム共和国パンジャブ州ムルタン市において実証試験のためのポンプの据付および測定準備作業が完了しました。2年目となる2025年4月からは本番となる実証試験が開始され、またDX・IoT技術を活用したリモートモニタリング・保守点検を実際に体験いただく取り組みも開始されています。気温が40度を超え高温環境となる5月からのモンスーンシーズンにおいても、ポンプは順調に運転しています。さらに1年を通して、本技術の有効性を検証し、現地関係機関への認知度向上を図るとともに、同国をはじめ熱帯地域各国に耐水モーター体型ポンプの有用性を知らせていただき、採用いただく普及活動を展開していきます。



耐水モーター体型ポンプ

空冷ファンを使ったモータ冷却システム



ポンプの実排水運転

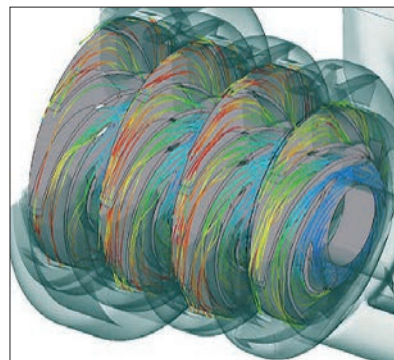
高効率LNGポンプを開発

このたびLNG（液化天然ガス）の輸送および供給分野への本格参入に向け、LNGポンプの開発を完了しました。これまで培ってきたポンプ技術をLNG分野に応用し、今後、高効率と優れた環境性能を両立する製品を提供していきます。

特 長

省エネ設計によるOPEX（運用コスト）低減

海水淡水化プラントや発電所向け多段ポンプで培ったノウハウと技術をもとに流体設計を最適化。CFD解析に基づく羽根設計により、業界最高水準のポンプ効率を実現し、エネルギー消費量を抑えることで、OPEX低減に貢献します。

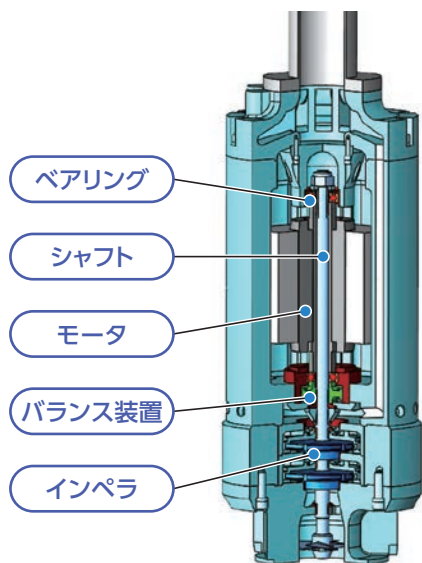


CFD解析（流体解析）により液体の流れをシミュレーション

LNGポンプの構造

ポンプとモータの一体構造によるシールレス化。

これによりモータ全体が接液することで優れた冷却性能を発揮。



LNGポンプ構造図



LNGポンプ外観



LNGポンプのオペレーション試験

開発の背景

日本政府は2050年のカーボンニュートラル実現に向け、エネルギー政策の転換を進めています。LNGは、石炭に比べてCO₂や大気汚染物質の排出が少ないクリーンな燃料として、脱炭素社会への移行期における重要なエネルギー源とされています。2025年2月に閣議決定された第7次エネルギー基本計画でも、再生可能エネルギーや水素・アンモニア利用への橋渡しとなる中間エネルギーとして期待されており、火力発電や産業分野におけるLNGの安定供給には、省エネ性能の高いポンプの提供が求められています。

今後の展開

今後は、LNGポンプをはじめとする多様なポンプ製品・ソリューションを国内外のエネルギー・産業分野へ幅広く展開し、技術革新を通じて持続可能な社会の実現に貢献していきます。

つねに時代のニーズに
応えるための
挑戦を続けているよ!



韓国^{ジュヌン}の機械加工メーカJuneung社を子会社化

トリシマは、2029年度の目標である「売上高1,000億円規模、営業利益率10%以上、ROE10%以上」の達成に向け、2025年度の重要課題のひとつに「つくる力の強化」を掲げています。この取り組みの一環として、これまでトリシマが機械加工を委託してきた韓国のJuneung Co., Ltd.を7月1日に子会社化しました。同社は、1992年の設立以来、ポンプおよび回転機器業界向けに高い水準の機械加工サービスを提供しています。Juneung社がトリシマグループの一員になることで、これまで外部に委託していた一部の機械加工の工程を内製化し、収益力の向上を図るとともに、グローバルでの製造能力および技術力を高めていきます。



TSSEが英国のKRG社を子会社化

トリシマの欧州諸国の中心となる子会社、Torishima Service Solutions Europe Ltd. (TSSE)は、スコットランドのコートブリッジに本社を置く精密加工企業KRG Specialist Engineering Services Ltd. (KRG)を買収しました。KRGは、高品質な精密機械加工を強みとし、1978年に設立以来、石油・ガス、防衛、発電、一般産業分野における特殊な受託加工を通じて大きく成長し、高品質な加工技術と信頼性の高いサービスにより、高い評価を得てきました。TSSEおよびトリシマにとっては今後、新たな加工能力と技術リソースの拡充につながります。TSSEとKRGはそれぞれ補完的なエンジニアリング技術を有しており、両社が連携することで、顧客に対してより幅広く高度なサービスを提供する体制が整います。



熊本県の「農村振興技術連盟優良工事等」に選定・表彰

トリシマが2022年2月から2024年7月にかけて施工した梅林地区水利施設等保全高度化事業第2号工事が、熊本県の農村振興技術連盟より表彰されました。この工事において、優れた技術と献身的な努力により他の模範となる優秀な成績を収めたことが評価されました。



この受賞は、工場製作における現場代理人の武田 浩志氏、監理技術者の竹崎 友哉氏、現場据付における現場代理人の岩下 知晃氏、監理技術者の力徳 正輝氏の精励によるものです。

プラントメンテナンスショーに出展

7月23日から25日まで東京ビッグサイトで開催されたメンテナンス・レジリエンスTOKYO2026内のスマート保安推進展であるプラントメンテナンスショーに出展し、「TR-COM(回転機械モニタリングシステム)」を紹介しました。現在の製造業の現場では、老朽化対策、生産設備保全管理、スマート保安、工場自動化、製造現場作業支援などの課題が顕著になってきており、人材不足や作業員の高齢化などが進行する現在、いかに業務の効率化を図り、生産性を向上させるかが企業の生き残り戦略になっています。

TR-COMは、これらを解決する有効な手段としてご利用いただけます。回転機械全般に利用が可能で、回転機械に無線センサ(b-Monitor)を設置することにより、10kHzの高周波の振動を測定し、故障の予兆となる初期の傷を検出することが可能です。また、ゲートウェイ(t-Gateway)により、自動的にデータ収集が可能となり遠隔による維持管理を実現できます。

ブースに来場されたお客様からは、既に導入している別の工場からの口コミをきっかけに自分の工場でも導入できないか



検討しているといったコメントをいただき、TR-COMの認知度が高まっていることを肌身で感じられました。

また、以前の展示会では、どの監視システムを導入するか情報収集中の方が大半でしたが、今回の展示会では既に実証・評価を実施済みで、今後どう活用していくか、機械の状態診断をどのように運用していくかなど、一歩踏み込んだ検討に進んでいる方も多く、来場者の状況の変化も感じられました。

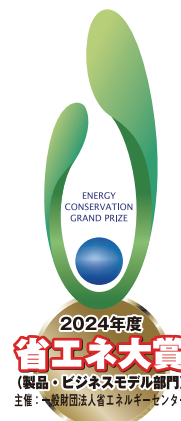
国内公共部門における 全国代理店会議を初開催

7月11日にトリシマ本社において、公共部門で初となる全国代理店会議が開催されました。気候変動への対応や地域社会の安全・安心の実現に寄与すべく、パートナーである全国の代理店の皆さまにご参加いただき、トリシマの独自技術を活かした技術提案営業をこれまで以上に推進していくことを目的としています。

当日は、公共事業部門におけるポンプの最新技術の紹介をはじめ、DX・AI技術の活用事例、各支社店および代理店による営業活動の取り組みについての発表が行われました。また、代理店の皆さま同士の情報交換や意見交換の場としても活発なディスカッションが行われ、有意義な時間となりました。参加された皆さまからは「来年度もぜひ開催してほしい」とのご要望もいただき、今後の営業活動の連携強化に向けた大きな一歩となりました。



9月に化学関連技術の展示会 INCHEM TOKYOに出展



会 期：9月17日から19日まで
会 場：東京ビッグサイト 東5ホール
ブース番号：5-R05

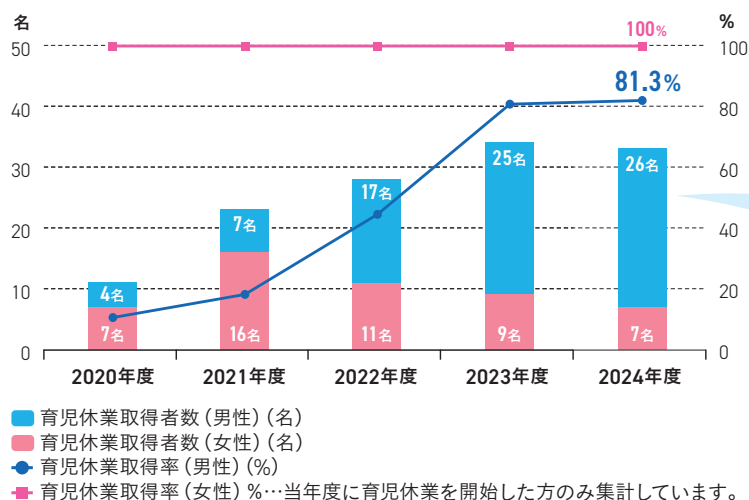
出展製品：世界最高水準のポンプ効率を実現した標準ポンプ「スーパーエコポンプ」を中心に、TR-COM(回転機械モニタリングシステム)、カーボンニュートラル社会を実現するための液化アンモニアポンプと液化水素ポンプ、世界最大のメカニカルシールメーカーの一社であるAES Engineering Ltd.の製品「AES SEAL」など幅広く展示します。ぜひお立ち寄りください。

経済産業大臣賞
(最高評価)
電気需要最適化分野

ワーク・ライフ・バランスだより



1 男性従業員の育休、過去最高水準に



2024年度の男性従業員の育児休業取得者は26名、育児休業取得率は81.3%となりました。育児休業取得率は、2030年3月期時点で100%をめざしています。女性従業員の育児休業取得率は毎年100%を達成しており、2024年度の平均取得日数は301日でした。

2024年度の男性従業員の
育児休業平均取得日は、
2023年度より13日増え **90日**に!



■非財務情報の確認方法

トリシマのウェブサイトでも育児休業取得率などの非財務情報をご覧ください。

www.torishima.co.jp/ir/results/esg/

2 産業医・保健師とつながるオンラインケアの導入

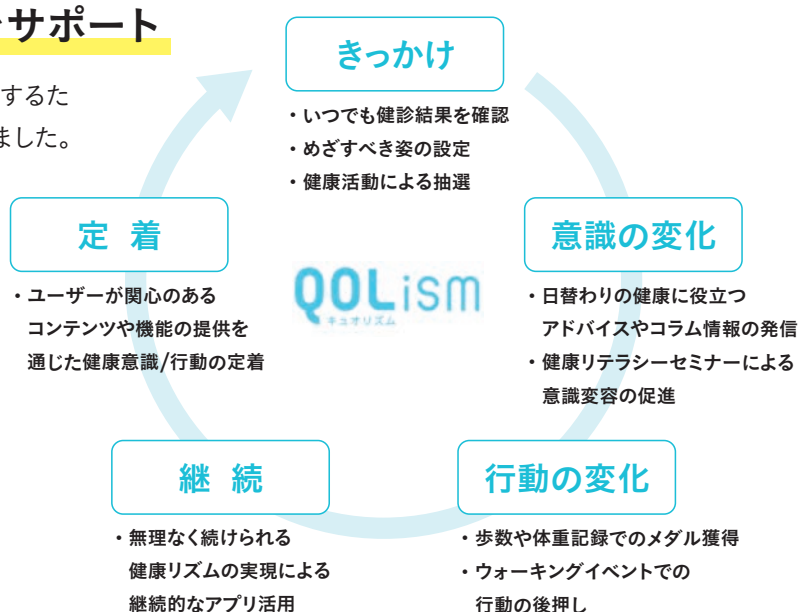
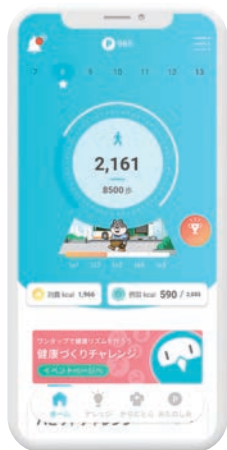
従業員の心身の健康を総合的に支援するため、産業医・保健師との面談・カウンセリングの体制をより充実させました。従来の対面による面談に加え、株式会社Avenirが提供する「メンタルクラウドサービス」を導入し、オンラインでの予約・相談も可能となっています。これにより、従業員がご自身の状況に合わせて、より柔軟かつ安心して相談できる環境を整えました。ストレスや体調面の不安、職場での人間関係、働き方への悩み、復職や両立支援など、幅広い相談ができます。

本制度は、労働安全衛生法に基づく企業の健康管理義務という法制度上の観点に加え、従業員のメンタルヘルス対策をより一層強化することを目的として導入したものです。また、厚生労働省が提唱する「心の健康づくり計画(4つのケア)」の考え方にも基づき、予防から早期対応、再発防止までを一貫して支援できる体制の構築をめざしています。



3 QOLism で日々の健康管理をサポート

従業員の健康意識向上と日々の体調管理をサポートするため、健康増進アプリ「QOLism(キュオリズム)」を導入しました。QOLismは、食事記録、腹囲計測、運動をはじめとしたさまざまなヘルスケアのコンテンツを利用することで、健康的な生活習慣が自然と身につくように設計されたアプリです。



また、生活習慣病の予防を啓発するオンラインセミナー視聴の提供も始めました。これらを従業員が積極的に活用し健康管理に役立てていただくことで、企業としては持続的な健康経営につなげていくことができます。

NEW!

トリシマが挑む「アジャイル革命」

未来を切り拓く新しい働き方

第1回

多面的なフィードバックを活用して開発を進める



今回は、「仕入れ明細システム」を開発したチームを代表して、調達部の井田さんにお話を聴かせてもらいました。

仕入れ明細システムとは？

このシステムを構築したことで、さまざまな業務の効率化につながっていますが、私にとっての一番のメリットは、調達部の業務のピークが平準化されたことです。

以前は、取引先から送られてきた請求書と、支払明細書を突き合わせて目視でチェックするという業務を行っていました。お金が絡むことなので、ミスが許されず、神経をすり減らす作業です。また、締め切りに間に合わせるために、毎月一定の時期は業務が集中するので休みも取りにくい状況でした。

そこで、この業務の仕組みを変えました。請求書はもらわずに、トリシマから仕入れ明細書を送付して、取引先が認識している金額と相違ないかを確認してもらうようになりました。これでトリシマだけではなく、取引先の作業量も減りました。

アジャイルのメリットは？

さまざまなフィードバックが得られる仕組みがあることで、誤った方向に進んでもすぐにやり直せることです。

最初は、フィードバックを受けることが怖かったのですが、アジャイルコーチとして支援してくれている永和システムマネジメントの天野さんから、「アサーティブ」という考えを教えてもらってから、「NOと言う/言われることが前提の思考」に変わっていきました。

システム開発中に、アリスターCOOや、調達部の同僚、取引先の方にも使ってもらい、得られたフィードバックをシステムの機能に反映させました。リリース後に取引先の方から「トリシマさんにしては、珍しく愛のある仕組み(笑)」との評価をいただきました。これまでは一方的なコミュニケーションになりがちだったのだと反省するとともに、この言葉でこれからの自分の仕事のスタイルに自信を持てるようになりました。



仕入れ明細システム作成メンバー

教えて！
いーちゃん先生!!



「アジャイルって、結局何がアジャイルなの？」

ビジネス用語としての「アジャイル」は、1990年の初頭に製造業で生まれた市場変化に「俊敏(Agile)」に対応するための経営手法です。その後ITの分野へと広まり、多くの企業がその考えや手法を活用して企業運営をしています。

業種を超え共通しているアジャイルの本質は「小さく始めて大きく育てる」ことです。大きいよりも、小さい方が機敏に動けますし、失敗の影響が小さくなるので多くのチャレンジに取り組めます。

アジャイル開発に興味を持ったら、**井伊までご連絡を!** 社内・社外の多くの方から連絡をいただけると嬉しいです。

私が答えます



情報システム室
課長 井伊 秀樹



株式会社 西島製作所 本社/工場：大阪府高槻市宮田町1-1-8
TEL：072-695-0551 [大代表] www.torishima.co.jp

トリシマは大阪・関西万博の会場整備参加に
ブロンズパートナーとして協賛しています



OSAKA, KANSAI, JAPAN
EXPO2025



©Expo 2025

Company Magazine | 2025 | 8 | No. 233